

市民のひろば ~震災の記憶を後世に~

レポート①

今月号は、いわき観光まちづくりビューロー企画総務課課長補佐の鹿崎耕司さんに、震災時の状況や施設の復興に取り組まれた状況などについて、インタビューした内容をお伝えします。



鹿崎耕司さん(いわき観光まちづくりビューロー)

Q 震災発生時はどちらで何をされていきましたか。

当日は、三月下旬に行われるイベントをPRするため、報道機関各社を訪れていました。地震発生時は、訪問先の駐車場にいましたが、大きな揺れが長く続いており、多くの方が外に避難してくる様子や、近くの方が崩壊し、砂煙があがる様子を目の当たりにしました。

Q 震災当日はどのように過ごされましたか。

市内郷支所にある事務所に戻ると、棚が倒れ、書類が散乱していました。余震もあったため、建物の外に避難しながら、支所の方々とテントを設置したり、備蓄の毛布を四倉高校の避難所まで運んだりしました。

Q 震災翌日からはどのような生活をされていましたか。



震災直後のいわき観光まちづくりビューロー事務所

翌日から十三日まで事務所内の片付けを行っていましたが、原発事故の影響で一週間ほど自宅待機となりました。待機後は、市内の被災状況を把握するため、写真撮影に向かったり、無料で利用できる温泉施設の案内など、被災者向けの情報収集と発信に努めました。

Q 震災後の観光産業の取り組みについて教えてください。

各地から復興支援の目的でイベントに呼んでもらうなど、多くの地域でフラガールのショーや物産展を開催してきました。

震災後は、いわき市の現状を誤解している人も多かったため、とにかく一人でも多くの方に、いわきの元気と現状を知ってもらうのに必死でした。物産展などに来場してくれる方々には、たくさんの応援の言葉を



平成24年11月8日 JR高崎駅(群馬県)での物産展

かけていただき、とても励まされました。

最近では、視察や教育旅行の一環としていわき市を訪れる団体が多くあり、その際は、職員が案内したり、震災語り部を紹介したりと震災学習にも協力しています。

Q 市民の皆さんにメッセージを。

来年四月から六月に、福島県において国内最大級の誘客キャンペーンであるDC(デスティネーションキャンペーン)が開催されます。今年度は、プレDCとして、さまざまな取り組みを行い、来年の本番を迎えることとなります。県外から、いわき市へ多くのお客様がいらっしゃいますので、これまでの支援に感謝する意味も込めて、市民一丸となって「おもてなし」の心でお客様をお迎えしましょう。

災害といわき

其の二

地名と災害の悩ましい関係

東日本大震災では、市内各地で大きな地震や津波の被害が発生しましたが、皆さんは「災害地名」という言葉を耳にしたことがあるでしょうか。

災害地名とは、地震や風水害など、主に自然災害の弱点を持つ土地だと推測される文字が使われている地名のことです。

たとえば、海岸や海では、浜、洲、潟など、水辺では島、岸など、入江では入、浦など、河川では川、河、江、瀬、沢など、窪地や沢では谷、窪、袋など、さらには水辺の植物や鳥の名などが考えられますが、日本の地名は「好き字」を使う習慣を持っているので、転用されている場合も少なくありません。窪が久保へ、埋めは梅へ、赤という字は古語で水の意味があり、なかなか油断ができません。先に例示した文字にしても、沼がつく地名であっても沼が見えるという理由で台地につけられることもあり、また名前に沼のつく有力者が拓いた土地かもしれませぬ。最近では耕地整理や土地区画整理で、地名の由来も土地の形状も変化してしまい、表向きにはまったく分からなくなってしまうこともあります。

いずれにしても、文字の解釈ばかりではなく、そ

の地名のルーツは、古地図と照合しないと容易に分からないというところでしょうか。

ところで、四倉町には塩木という地名があります。『四倉史学会会報』第1輯の「塩木の昔を考える」によると古い書物には潮来が表記されており、昔、津波が来た地区として今に伝えられています(地図)。

(いわき地域学會・小宅幸一)

(地図)仁井田川に沿う「塩木」[1:50,000地形図 平(平成19年修正)]



4月14日(月)の市役所本庁舎、各支所・市民サービスセンターでの放射線量測定値

庁舎・支所	平(本庁)	小名浜	勿来	常磐	内郷	四倉	遠野	小川	好間	三和	田人	川前	久之浜・大久
地上1m	0.121	0.039	0.050	0.068	0.056	0.067	0.064	0.061	0.060	0.067	0.083	0.075	0.143

市民サービスセンター	中央台	豊間	泉
地上1m	0.093	0.135	0.067

測定時刻：10時
単位：マイクロシーベルト/時
出典：原子力規制委員会ホームページより

モニタリングポストは、マイクログレイ/時で測定されていますが、本表では1マイクログレイ/時=1マイクロシーベルト/時と換算して表示しています。

※久之浜・大久支所は、改築工事のため、当面、久之浜西公園での測定値を掲載します。

※過去における測定値、平成22年度の市内の状況については、0.04~0.07マイクロシーベルト/時で推移していました。(福島県ホームページより)

水道水の放射性物質の測定結果 水道局では、市内全11浄水場の水道水を週3回(遠野地区の3浄水場は週1回)検査しています。現在の検査結果は、放射性ヨウ素・放射性セシウムとも、全て不検出(1ベクレル/kg未満)であり、安心して飲んでいただけます。

放射線に関する問い合わせ窓口(県設置窓口) ☎0120-988-359 平日：8時30分~18時30分 土日祝：8時30分~16時